父が起きて來て僕をねかせようとする。
非常な生理的の苦痛を經た後の精神は、非常に自惚れるものであるらしい。
『弘法大師の親父も、キサマのやうな馬鹿だつたんだ。
南無妙法蓮華經。
日蓮の聲よりは大きい。
氣をつけろ、まぬけめ』
此んな調子でまじめ臭つて、僕は三時間余も、父が起してくれた火にあたつて起きてゐた。
夜が明けた。
僕は又女の家へ出掛けた。
紋章を付けた金ピカの署長が、自轉車に乘つてゐるのに行き遇ふ。
おぢいちやんは次の間にねてゐる。
昨日の如くにして日は暮れた。
刑事が床の下に張り込んでゐる樣な物音がする。誰かゞ來たのではないかと、僕は再々女を外